

# パッチ・アダムスとスラムダンク

フリーペーパー「FreeBas」創刊おめでとうございます。また、創刊より執筆の機会を与えてくださり誠にありがとうございます。大変に光栄に思います。

今回編集の方より貴重な誌面を割っていただいたので、スポーツドクターとして、知っているまたは考えているスポーツ、中でもバスケットボールの魅力や存在意義について語って行きたいと思えます。なぜこの世の中にスポーツが誕生し、バスケが生まれ、人間社会に広がり、今もなくならないのかということについてみなさん考えたことありますか？そんなことをこのコーナーでは真剣にかつ面白く語って行きたいと思えます。

のスポーツドクターではありません。スポーツ選手やスポーツチームもサポートしていますが、スポーツを診るというドクターではなく、スポーツで診るというドクターを目指しています。スポーツという素材であらゆる人のQOLをサポートするというまったく新しい広義の医療です。もともと内科の医者をやっていたわたしの人生の方向性を変えた出会いが3つあります。1つはパッチ・アダムスというアメリカの精神科医です。ロビン・ウイリアムスが主演した映画でもおなじみです。彼は笑いという素材で、人のQOL、すなわちクオリティ・オブ・ライフをサポートすることの社会的意義を訴え活動している人物です。病気が死と聞かぬ医療だけでなく、生きるときの質を高めるアプローチ、特に心の面

から豊かに生きることの大切さを主張しているドクターです。このパッチ・アダムスの活動理念に触れ、人生の方向変換を決めました。病院にいる通常のドクターはやめようとして、2つめの出会いはみなさんご存知、かの有名な「スラムダンク」の著者井上雄彦先生。「スラムダンク」を使っていろいろなチームにメンタルトレーニングを始めている頃、これを書籍にして多くの方々の人生の質の向上サポートになればと考え、思い切つて井上先生に相談申し上げたのです。すると、まったく無名のわたしの考え方に賛同をいただき、なんと快諾を得ることができたのです。下北沢の日本料理屋ではじめてお会いしたときのドキドキした気持ちいまだに思い出します。それで生まれた書籍こそ「スラムダンク勝利学」(集英社インターナショナル)です。スポーツがあらゆる人の人生を心の面から豊かにする力を持っているというわたしの考えに井上先生

の賛同を得られたことはわたしの人生に大きなターニングポイントになったのです。大学の研究室を止め、現在のエミネクロスというオフィスを東京・南青山に出す決心がついたのも井上先生の力強いお言葉があったからこそだと思います。そして、3つめの出会いは、この夏の世界バスケットの全日本代表チームのアシスタント・コーチでもあった東野智弥コーチ(自称クラッシュ)です。ちょうど、自分のオフィスをスポーツ・クリニックという形で展開しようと考えていたときの出会いでしたが、わたしと同じようにバスケットボールの社会的・文化的な価値を知り、それを享受できていない現状への憂いと、その価値を有するバスケット本来のすばらしさを語り合い、すっかり意気投合しました。バスケットこそ人間固有の文化的財産なのだといふことでわたしの活動はスポーツクリニックにとどまらず、バスケットワールドへと進んでいくことになったのです。普通の内科医だつたわたしにとって、想像をはるかに超える今となっています。しかし私自身がバスケット

界にいます。バスケットが単に競技や体育としてだけでなく、世界中に存在し続け消滅しない大きな理由として、「バスケットボールは医療であり、コミュニケーション」であり、教育である」というのがバスケットの真実だからだとわたしは思っています。もし、ほんとうにそうだとすると、バスケットは単なる競技ではなく、体育でもなく文化なのではないかと。バスケットがなぜ、医療であり、芸術であり、コミュニケーションであり、教育なのかといえれば、バスケットはあらゆる人々に、元氣と感動と仲間と成長をもたらしてくれるからだとわたしは思っています。バスケットはこの人間のQOLを維持・向上するために必要な元氣と感動と仲間と成長そのものなのだ。だから、それぞれに対応して、バスケットは医療であり芸術であり「コミュニケーション」であり、教育なのです。今後わたしに与えられた範囲の中でこのフリーペーパー「FreeBas」の中でなぜ元氣・感動・仲間・成長なのかを解説していきたいと思えます。お楽しみに。

**【Dr. 辻のバスケ考】**  
バスケは人間固有の文化だ!



辻 秀一(つじしゅういち)、  
スポーツドクター

1961年東京都生まれ。北海道大学医学部卒業。慶應義塾大学で内科研修を積んだ後、スポーツ医学とスポーツ心理学を専門とする。現在エミネクロス代表としてさまざまな人のQOL向上をテーマに、集団や個人に対しチームドクターとしてカウンセリングやメンタルトレーニングでサポートしている(www.eminecross.com)。03-5474-3765)。子どもたちの人間学習を目的としたスポーツ塾「チームエミネクロス」や車椅子バスケットボールチーム「No Excuse」、耳の不自由な人たちのバスケット「Rough」、天皇杯勝利を目指すトップバスケットチーム「Excellence」、誰でも参加できるストリートバスケット「エミネクス」などを運営するNPO法人エミネクロススポーツワールドの代表でもある。目指すはスポーツ版のパッチ・アダムス。またビジネス界、音楽界にスポーツ心理学を「社メンソッド」として導入しビジネスマンや音楽家もサポートしている。

主な著書に「スラムダンク勝利学」(集英社インターナショナル)、「人のためになる人、ならない人」(リビリコ社)、「弱さを強さに変えるセルフコーチング」(講談社α新書)、「心の力コーチング」(講談社)、「ほんとうの社会力」(日経BP社)、「演奏家のためのこころのレッスン」(音楽の友社)など著書多数。

ケ・ワールドに生まれ、日々幸せであることに間違いありません。さて、わたしのヒストリーはこのくらいにして、バスケットボールの社会的・文化的な価値について考えてみた